令和８年度　第１回沖縄県地方創生推進会議
議事録（後半の部）

日　時　令和８年 10 月１日（木）　16：10～16：45

場　所　県庁　４階講堂

出席者

会　長	島袋　伊津子	沖縄国際大学教授
委　員	宮下　健太郎	沖縄労働局職業安定部長
委　員	宮里　哲	座間味村長
委　員	糸洲　理子	沖縄キリスト教短期大学教授
委　員	前泊　辰哉	沖縄振興開発金融公庫業務統括部長
委　員	平良　哲康	連合沖縄事務局長
委　員	鯨本　あつこ	離島経済新聞社代表
委　員	鈴木　智洋	沖縄 IT イノベーション戦略センター専務理事

（欠席）

委　員	多嘉良　尚子	沖縄県経営者協会女性リーダー部会副部会長
委　員	津波古　透	沖縄県商工会連合会専務理事
委　員	鈴木　和子	鈴木和子税理士事務所所長

事務局

企　画　部：宮城統括監、井上課長（企画調整課）、
森根副参事（企画調整課）仲本主幹（企画調整課）、
玉城主査（企画調整課）、久田主任（企画調整課）、
岳原主事（企画調整課）

３　報告事項

沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画 令和７年度進捗状況について

【資料５】

【島袋会長】

それでは定刻となりましたので、これより後半の部を開始いたします。

【事務局　玉城主査（企画調整課）】

本日糸洲委員もご参加されていますが、16 時 40 分までの参加と伺っておりますのでよろしくお願いいたします。では会長、よろしくお願いします。

【島袋会長】

はい、それでは次第に沿って会議を進めてまいります。報告事項の「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」の令和７年度進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】

はい、それでは事務局から資料５を用いて説明させていただきたいのですが、その前に資料５の最後に「計画の位置付けと概念図」というものをつけております。ご覧いただけますでしょうか。左側に青いピラミッドで書かれているものですね。「計画の位置付けと概念図」です。２つのことをお伝えしたいと思います。

まず、ピラミッドの一番上ですが、２１世紀ビジョンというのがあって、こちらは将来のあるべき姿とその実現に向けた取り組みの方向性を定めています。こちらは 20 年くらいのビジョンを掲げています。その下に「新沖縄２１世紀ビジョン基本計画」ということで、基本計画があって、これが一般的に「計画」と言われるものですね。今、中間見直しなども行っているのがこの基本計画になります。その下に「沖縄２１世紀ビジョン実施計画」というものがありまして、これは基本計画（10 年）を３年・３年・４年で分けて、今、中期

（3 年）の令和 7 年から 9 年度に分けて取り組んでいるという状況でございます。この上の 3 つは、あらゆる分野を総合的に計画して取りまとめた計画なのですが、その下に各「個別計画」ということで分野別の計画を定めております。例としては「沖縄県 DX 推進計画」や「観光振興基本計画」など様々あるのですが、その中の 1 つとして「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」がございます。これがまず位置付けですね。それから、こちらの「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく国の総合戦略（デジタル田園都市国家構想総合戦略）を勘案して作ることになっておりまして、その地方版という位置付けになっております。

さらに、実は国の総合戦略の方がこの 7 月に改定されておりまして、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」から「地域未来戦略」という形になっております。地域未来戦略につきましてはご案内かと思いますが、経済政策中心、産業政策中心のものになっていまして、その中に地方創生の概念が入ってまいります。ですので割と大きな改定になっています。それを踏まえて、我々の「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」も今後改定していく必要があります。これは次年度、令和 9 年度に改定予定ですので、こちらについてはまた次年度に見ていただきますが、位置付け（大きな沖縄２１世紀ビジョン全体の中での「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」の位置付け）をおさらいさせていただきました。

それでは、資料 5 の最初の 1 ページから説明させていただきます。
計画策定の意義についてなのですが、まず「将来の人口減少・少子高齢化を見据え、本県の地方創生の取り組みをデジタル技術の活用により加速化・深化させることで、活力ある持続可能な社会を実現する」ということになっております。位置付けについては、先ほど説明した通り「国の総合戦略を勘案した都道府県版総合戦略であり、かつ新・沖縄２１世紀ビジョン基本計画を補完する個別計画の 1 つ」ということが示されております。

2 ページをご覧ください。施策展開を示しております。基本施策 1 から 4、および横断的な施策に区分しております。この後、進捗状況についてもこの区分により説明してまいります。

3 ページ以降、9 ページまでは人口の動向を統計データで示していて、詳細は割愛しますが、7 ページの人口動向「沖縄の人口と自然増減および社会増減

の推移」をご覧ください。沖縄県の総人口ですが、1975 年から一貫して増加してまいりましたが、2021 年頃からはほぼ横ばいで推移している状況です。横ばいではございますが、中身としては、青色の社会増減は増加幅が拡大傾向にある一方、赤色の自然増減は減少幅が拡大しているというような人口の状況にございます。

10 ページをご覧ください。「計画の効果的な実現について」となっております。「ゆがふしまづくり計画」の第 7 章の 1 に「沖縄県地方創生推進会議の設置」という項目がございます。まさにこの場がその会議でございます。1 の四角囲みの説明文に「本計画の推進にあたって、広く関係者の意見を反映させるため、産業界、市町村、国の関係行政機関、学識経験者、金融機関、労働団体等で構成する会議を設置する」となっております。続きまして、「同会議に対して、定期的に本計画に基づく取組の進捗状況について報告を行い、意見を求める」となっております。

11 ページをご覧ください。「重要業績評価指標（KPI）の変更について」となっております。「ゆがふしまづくり計画」は、新・沖縄２１世紀ビジョン実施計画の成果指標から KPI を設定することを基本としております。令和 5 年度に「ゆがふしまづくり計画」を策定した際は、新・沖縄２１世紀ビジョン前期実施計画の KPI を採用していましたが、令和 7 年度に新・沖縄２１世紀ビジョン中期実施計画が始動したことにより、同実施計画に合わせて「ゆがふしまづくり計画」の KPI（36 の基準値、20 の目標値）を変更しております。基準値・目標値の変更理由等は下段に書いております。

次のページをご覧ください。12 ページから 17 ページまでは、今回変更した基準値と目標値を赤字にして表記しております。ご覧いただくと、赤字になっている部分が変更されている部分でございます。17 ページの右側に、KPI そのものを変更しているものもあります。ナンバー46、76、77 です。理由は近年の社会経済情勢の変化などに対応するため、指標自体を変更しているものでございます。

続いて 18 ページをご覧ください。KPI の評価方法と全体の状況です。右上側に進捗状況を算出するための図がございます。基準値をスタートとして、令和 9 年度の目標値に対して令和 7 年度はどの程度進捗しているのかを、青色枠で囲まれた算式に基づいて進捗率を算出し評価している状況でございます。

左下の表をご覧ください。「前進」という評価は基準値と比較して良くなっているもの、「横ばい」は基準値と比較して変わらないもの、「後退」は基準値と比較して悪化しているものです。令和 7 年度の進捗状況ですが、91 の KPI に対し「前進」と評価されているものが 76 件（83.5%）、「横ばい」が 3 件（3.3%）、「後退」が 12 件（13.2%）となっております。その前進の中でも「100%以上」という欄がございます。これは令和 7 年度時点で既に令和 9 年度に掲げている目標を達成し、それを超えているものが 28 件あるということです。また前進の中でも「60%以上 100%未満」が 21 件、「60%未満」が 18 件となっております。60%が境目の区分として表示されている理由については、この期間が 5 年間になりますので、令和 7 年度は 3 年目にあたります。そのため単年度あたり 20%ずつ進捗して、令和 7 年度時点で 60%以上達成していれば進捗状況は良好と評価しております。

19 ページをご覧ください。こちらのページでは基本施策ごとの進捗状況を記載しております。前進の割合が最も高いのが基本施策 3、最も低いのが基本施策 2 となっております。

20 ページから 25 ページまでは、先ほど表でご案内した重要業績評価指標（KPI）のすべてを一覧にしております。この表の見方ですが、例えば 20 ページ、一番左側の列が通し番号となっております。そこから徐々に右側に目線を向けていただきますと、施策体系や展開が計画にどう位置付けられているか、そしてそれぞれの施策等にどのような KPI が設定されているのか、その KPI について基準年と基準値がどうだったかというものが真ん中の青色で表示されている箇所になります。また、基準値をスタートとして、令和 9 年度の目標値に対して令和 7 年度はどの程度進捗したのかを一番右端の「進捗状況」の欄に記載しています。こちらは先ほど説明した算式にあてはめたときに、進捗状況が何%なのかということを計算して表示しております。60%以上で達成しているものは青色の数値、0%以上 60%未満の達成状況は黒色、逆に悪化しているものは赤色の数値で表示しております。

これから私の方からいくつかピックアップしながら説明をさせていただきたいと思います。

まず 20 ページのナンバー9、「小学生数に占める児童クラブを利用できなかった児童数の割合」についてご説明します。基準値が 0.78%、目標値が

0.32%、少なければ少ないほど良いわけですね。そして令和 7 年度実績値は 0.86%、進捗状況は-17.4%となっています。要因としましては、潜在的なニーズの掘り起こしにより需要に対する供給が追いついていない状況とのことです。この状況を踏まえて、「子ども・子育て支援法」に基づき令和 9 年度に策定した「子ども・子育て支援事業計画」において、令和 11 年度末までにこれらのニーズを踏まえたサービスの提供体制の整備を進めるということでございます。

次に 21 ページのナンバー22 の KPI、「新規学卒者の 1 年目離職率」についてご説明します。大学卒業者の 1 年目離職率は目標値 11.7%に対して、令和 7 年度実績値が 14.6%と、基準値の 14.5%から悪化しており、進捗状況は-3.6%となっております。また、高校卒業者の 1 年目離職率も目標値 18.2%に対して、令和 7 年度実績値が 24.3%、進捗率は 1.6%と進捗は芳しくありません。これは卒業後に非正規労働者として就労する割合が他県と比べて高く、雇用期間満了後の離職が多いことが、進捗が芳しくない要因と考えられます。改善案としましては、若年求職者と企業のミスマッチによる離職を防ぐため、合同就職説明会による企業と学生の接触機会の創出や、沖縄県キャリアセンター・大学等に設置する専任コーディネーター等による丁寧な就職支援、企業情報の提供を強化してまいります。

次に 22 ページ、ナンバー31 の KPI、「大学発ベンチャー等創出数等」についてご説明します。目標数 51 社に対して、令和 7 年度実績値は 57 社、進捗状況は 122.2%と目標値を上回る結果となっております。起業家育成プログラムの実施や、県内大学等を核とした産学連携による共同研究の推進、研究成果の実用化支援を行うなど、大学発ベンチャーが生まれやすい環境整備に取り組んだとのことです。

次に 23 ページの KPI、ナンバー46 の「回復期病床数」についてご説明します。目標値 2,404 床に対して、令和 7 年度実績値は 2,814 床、進捗状況 210.5%と目標値を上回る結果となっております。これは医療法の特例に基づく回復期病床の増床や、医療機関へのデータ提示による必要性の周知、例年の病床機能報告を通じた機能転換の促進等により、回復期病床の増加につながったと考えております。

次の 24 ページ、ナンバー60 の KPI、「低廉化した路線における航路・航空路の利用者数（離島住民）」についてご説明します。航空路は目標値 42 万 2,000 人に対して、令和 7 年度実績値は 54 万 8,000 人、進捗状況は 196.9%。航路は目標値 65 万 5,000 人に対して、実績値は 60 万 1,000 人、進捗状況は 71.1%と進捗は順調に推移しております。これは航空路においては運賃の一部を補填し、離島住民の負担軽減を図ったこと等から利用者数の増加につながったと考えられます。航路においてはコロナ禍以降、実績数は伸びているもののコロナ前と比べると回復が十分ではない状況ですが、令和 9 年度の目標値達成に向けて順調に推移しております。

次に 25 ページのナンバー76 の KPI、「本島および離島から離島への派遣やオンラインで交流する児童数」についてご説明します。目標数 1 万 4,419 人に対して、令和 7 年度実績値は 9,425 人、進捗状況は 63.8%となっております。これは離島コーディネーターの育成に向けた研修を実施し、受け入れ体制の強化を図ることにより、概ね計画通りの進捗となりました。

次にナンバー78 の KPI、「進路決定率全国平均との差（高校）」についてご説明します。目標値-3.2 ポイントに対して、令和 7 年度実績値は-6.2 ポイント、進捗状況は 6.25%となっております。これはキャリア教育支援を全県立高校に拡充し、授業や研修の充実を図ったものの、就職関連研修の参加者数減少や支援員減少が影響しているものと考えられます。課題である関係教職員との一層の連携強化に取り組んでまいります。以上、KPI の状況についてかいつまんで説明させていただきました。

最後に 26 ページをご覧ください。全体のまとめページになっております。四角囲みの 1 つ目、KPI91 の指標により 76 指標（83.5%）が基準値と比較して「前進」という結果になっております。一方で「横ばい」または「後退」となった指標は 15 指標ございました。後退となった要因については、建築資材高騰等の物価上昇や人手不足などの外部的な要因が関係しております。また、各種取り組みの周知啓発不足など、県の取り組みがまだまだ十分でないという内部要因もございます。まずはこういった内部要因をしっかり改善していくことが重要だと考えております。

続いて「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画の進捗状況と今後の改訂に向けて」という項目をご覧ください。下段の方です。事務局といたしましては、令和７年度の進捗状況は概ね順調であると考えております。
２つ目のポツについて、先ほどもご説明しましたが、令和８年７月に国の総合戦略が「地域未来戦略」に改訂されたことから、沖縄県におきましても県の地方創生版総合戦略である「沖縄２１世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」を改訂する必要があります。そのため、令和９年度は地域未来戦略を勘案したゆがふしまづくり計画改訂に向けて取り組んでまいります。改訂内容については、来年度この会議の場で皆様にご説明させていただきたいと思っております。
長くなりましたが、事務局からは以上となります。

【島袋会長】
はい、ご説明ありがとうございました。それではご意見、ご質問などがございましたらお願いいたします。

【前泊委員】
政策金融とは全く関係ない、まったくと言ったらあれなのですが、22番の新規学卒者の１年目離職率、特に大学なのですが、この重要性というのはよく分かっているつもりなのですが、今、大学新卒３年目までは新卒と同じみたいな目線があったりして、３年以内の離職というのはハードルが日本全国でだいぶ下がっているのではないかという環境変化が非常に大きいのではないかというのが、意見でも何でもないのですが、離職率の重要性はよく分かっているのですが、一方で環境がだいぶ変わってきているなというところを感じました。以上です。

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】
ご指摘ありがとうございます。確かに新規学卒者の離職、就業環境ですね、３年目以内の状況というのはかなり変わってきてはいるのかなと思います。その中で今回こういったKPIで評価していますけども、理由としては環境のようなところは書いてはおりませんが、確かにそういった環境もあると思います。今

後この指標でいいのか、引き続き検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

【島袋会長】
他にいかがでしょうか。

【宮下委員】
同じく 22 番なのですが、沖縄労働局も重要な問題だなというのをすごく認識しておりまして、離職する要因として、やはり企業側と働き手側の 2 つの要因があると思うのですが、両方に対して支援できるような取り組みがあるといいのかなというのはすごく思いました。企業さん側に対しては働きやすい職場環境の整備ですとか、働いた後に色々そういったことを支援できるような取り組み、また働く前、働き始める前にあっては、大学側に向けてキャリア教育に向けた支援とか、インターンシップか何か充実できるような支援があるといいのかなというのを思いました。以上です。

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】
ご提言ありがとうございます。様々な支援の方法をご提示いただきまして大変助かります。関係課がいくつかあるかと思いますので、そちらの方にもこういったご意見があったことを展開して、施策の充実を図っていきたいと思います。ありがとうございます。

【島袋会長】
他にいかがでしょうか。

【平良委員】
沖縄県の人口増減との全体的な関係性ですね。各 KPI 含めての観点で個別には KPI は定められてはおるのですが、県として見たときに、これから人口減に向けての食い止め策だとか、もしくは減に対しての対策なのかとか、そういったところ含めての全体感としてのその KPI の位置付けという観点、そういったところも多分この資料を見ながらそれぞれの KPI 含めての観点で加味されてい

ると思うので、そういったところ、まず全体感を踏まえた流れの中から各 KPI を踏まえた流れの中で「こういった施策なんです」というところを意識していただけるといいかなと思いました。

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】

ありがとうございます。おっしゃる通り、人口が横ばいで、ただ自然減というのが明らかになってきていますので、現状のままだと減少に向かうのかなという風に思われます。そういった中で、それをじゃあ KPI にどう反映させていくのか、なかなか難しいところがございます。国の人口の考え方も人口減を前提として、それでも社会システムが維持できなくなるという大きな問題がございますので、それにどう対応していくかというところがあるのですが、それを踏まえて KPI をどう位置付けていくか、今後も考えていきたいと思います。ご助言ありがとうございます。

【島袋会長】

他にいかがでしょうか。

【宮里委員】

目標についてなのですが、例えば市町村だったらもちろん沖縄県 41 市町村で変わることはないので、そこはそこでいいと思うのですが、例えば既にもう目標値を超えているものって結構ありますよね、100 何%と。これはそのままの数値でいいのですか？

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】

目標値がすでに上回っているものについては再設定をいったんしております。２１世紀ビジョンの実施計画の中で目標値を改定して再設定したのですが、またさらに上回っているものもあったりするので、ちょっと分かりにくい状況にはなっております。今後改定するタイミング、KPI の目標値とかそういったものを改定するタイミングでは見直していくということになるかと思います。

【宮里委員】

累積でどんどん増やしていく目標値と、そうじゃない目標値が確かあって、累積のは少なかったですよね。累積の目標値は分かりやすい気がするのですが、例えば分かりやすいところで言うと、離島の航空運賃安くしました、船賃安くしました、で利用推進している人はある程度伸びてきたらもうここで止まると僕思ったりするのですが、要は人口が増えないし減っていくわけですよね、宮古・石垣みたいな大きなところは別でしょうけど。この目標値の設定の仕方、さっきの観光とはまた別の意味での考え方・発想なのですが、そういったところって、理解しつつと言ったら失礼になるかもしれないですけど、人口が増えていかないにもかかわらず、それでも今 6 割いけば良しとする、で残りの何年間で 100%持っていくとは言っているのですが、実際に人口も変わらなければ利用者数も変わらないと思うのですよ。単純な話ではあるのですが、それで目標値の設定の仕方というのは、累積だったら分かるのです。すぐ答えが出ないと思いますけど、そういう風に思いました。

【事務局　仲本主幹（企画調整課）】

おっしゃる通りすぐ答えられないのですが、上限がある目標値も当然ございますので、目標値の設定の仕方ですね、今後も工夫していきたいと思っております。

【島袋会長】

他にいかがでしょうか。宜しいですかね。はい、それでは皆様ありがとうございました。委員の皆様からのご意見を踏まえ、事務局において今後の取り組みに生かしていただくようよろしくお願いいたします。本日は長時間にわたりお疲れ様でした。それでは事務局へお返しいたします。

【事務局　玉城主査（企画調整課）】

委員の皆様、本日は長時間にわたりありがとうございました。それでは以上を持ちまして、令和 8 年度第 1 回の沖縄県地方創生推進会議を終了いたします。お疲れ様でした、ありがとうございました。